

午前の部 10時開演

二人三番叟

壺坂観音靈驗記 〔沢市内より山の段〕

午後の部 14時開演

団子売

近松門左衛門作／野澤松之輔 脚色・作曲

曾根崎心中

澤村龍之介 振付

生玉社前の段、天満屋の段、天神森の段

内子座文楽

2023年
8/19(土)
20(日)

第24回公演

[主な出演者]

太夫 豊竹呂太夫
三味線 鶴澤清介
人形 吉田和生(人間国宝)・桐竹勘十郎(人間国宝)・吉田玉男

※内容、出演者には変更が生じる場合があります。あらかじめご了承ください。

[予約申込]

先行発売 (友の会対象) 一般発売
4/16(日)～ 4/23(日)～

[ご観劇料] (全席指定 / 税込) 小学生未満入場不可

松席 8,000円 特竹席 7,000円
竹席 5,000円 梅席 3,000円

[内子座オンラインチケット](#) 検索

☎ 0893(44)2114

内子座文楽公演実行委員会事務局 (平日・午前8時30分～午後5時)

〒791-3392 愛媛県喜多郡内子町内子 1515

主催 内子座文楽公演実行委員会・内子町・内子町教育委員会 制作協力 公益財団法人文楽協会

後援 愛媛県・愛媛県教育委員会・公益財団法人愛媛県市町振興協会・愛媛県指定文化財文楽保存協議会・一般社団法人愛媛県観光物産協会
一般社団法人内子町観光協会・内子町文化協会・NHK 松山放送局・南海放送・テレビ愛媛・あいテレビ・愛媛朝日テレビ・愛媛新聞社
読売新聞松山支局・朝日新聞松山総局・毎日新聞松山支局・日本経済新聞松山支局・産経新聞社・日本航空株式会社松山支店

[写真 滝澤めぐみ]

コロナ禍を経て四年ぶりの開催となりました。今夏の内子座文楽は、過去二十三回の上演演目の中から、再演リクエストの多かった演目をお送りいたします。

一午前の部

二人三番叟



天下泰平・国土安穩を祈禱する能の「翁」。これを義太夫節に移したのが、「寿式三番叟」で、本作は、その中から三番叟の舞を独立させました。人形のリズミカルな動き、また鈴の音、足拍子、そして義太夫節とすべてが心地よく耳に響く、楽しい作品です。

壺坂観音靈験記

～沢市内より山の段～

内子座文楽では平成十四年（2002年）に上演しています。明治時代に作られた、人形浄瑠璃文楽の演目の中では比較的新しい作品です。

その昔、土佐町（今の奈良県高取町）に住む盲目の沢市は、妻お里とともに、細々と暮らしておりました。あるとき、沢市はお里が明け方になると、毎日のように出かけていることに気づき、不貞をはたらいているのではないかと疑って妻を問い詰めました。すると、お里は沢市の目が見えるようにと壺坂寺の観音様に願掛けに行っていたことがわかります。お里を疑ったことを恥じて、沢市も一緒に観音詣りを始めますが、お里のことを思うと自分がいけない方が幸せになれると考え、谷に身を投げて自らの命を絶つてしまいます。そして、沢市の死を悲しんだお里も後を追って谷に身を投げてしまいます。この二人の夫婦愛を聞き届けた観音様は……

この物語は、心中物や時代物でも悲劇的な結末の多い文楽の演目の中で、数少ないハッピーエンドの作品です。

一午後の部

団子売



賑やかな街にやってきたのは、杵造とお白の団子売りの夫婦。米から団子を仲睦まじくこしらえます。夫は鉢巻、妻はお多福のお面をつけ、軽妙に舞います。太夫と三味線が、華やかな音楽を奏でたりする中、太夫の語る言葉の中には、五穀豊穡と子孫繁栄の願いが込められています。

曾根崎心中

近松門左衛門作/野澤松之輔脚色・作曲

物語が生まれた背景は一七〇三年四月。醤油屋で働く徳兵衛と天満屋の遊女・お初が、大坂の曾根崎にある天神の森で、心中する事件が起きました。当時お初は十九歳、徳兵衛は二十五歳。若い二人の早すぎる死は世間を騒がせることとなり、その事件を題材に、近松門左衛門が、すぐさま浄瑠璃を書き上げ竹本座で上演しました。これが実際に起きた事件を扱った最初の「世話物（せわもの）」となりました。

初演は大好評でしたが、上演が絶え、昭和三十年（1955年）、野澤松之輔の脚色・作曲により四ツ橋文楽座で復活。今や文楽の人気演目の一つとなっています。徳兵衛とお初の心中に至る状況は全て「生玉杜前の段」で語られ、続く「天満屋の段」で描き出されるのは、ほば心情のみ。お初と徳兵衛が足を介して互いに心を伝え合う「足問答」の場面は大変有名です。「この世の名残、夜も名残」と、名文で始まる「天神森の段」（澤村龍之介振付）での心中は、人形の美しさに、三味線が哀れさを加え、常に多くの涙を誘ってきました。離れては片時も生きてはいられないほど愛し合った男女の強い結びつきが純粋に感動を呼ぶ作品です。

今年、近松門左衛門の三〇〇回忌にあたり、近松にとっても記念碑的なこの作品の魅力を内子座で発見しませんか。

芝居小屋「内子座」で出逢う、日本の伝統芸能「文楽」の魅力

四国・愛媛の山あい位置する小さなまち、内子町。ここに、この町が全国に誇る芝居小屋「内子座」（国指定重要文化財）があります。2016年に創建100周年を迎え、いまもなお現役の芝居小屋として多くの人々に愛されています。昔ながらの雰囲気を残す内子座で、日本を代表する伝統芸能「文楽」の世界を、どうぞ心ゆくまでお楽しみください。

Uchiko, a little town in Ehime prefecture, which is well known in Japan for its old traditional buildings and streets, welcomes the famous Bunraku (traditional puppet show) for performances at Uchiko-za Theater. The Uchiko-za, a wooden playhouse over 100 years old, is an important base for promoting the art and culture of the town. Please enjoy the world of Bunraku to your heart's content here at the Uchiko-za.

交通のご案内

○松山自動車道松山IC～内子・五十崎IC経由で約30分

○JR松山駅～JR内子駅、特急約30分。内子駅から徒歩で約10分



インターネットでお申込み
内子座
オンラインチケット

内子座文楽 お座席表

一階		舞台			
西2イス	西1イス	花道	平	腰掛	東2イス
竹	特竹	松	松	松	梅
向正面イス		松			
二階					
西3イス	西2イス	西1	東1	東2イス	東3イス
竹	竹	特竹	竹	梅	梅
向正面1		松			
向正面2		腰掛		特竹	
向正面3		腰掛		特竹	
向正面4		腰掛		竹	